

令和5年度 第2回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会 議事録

開催日	令和5年11月21日（火）	
開催時間	10時00分～12時00分	
開催場所	佐賀市役所 大財別館4-2会議室	
出席者	委員	富吉委員長、石丸副委員長、多良委員、 松本委員、福成委員
	公益財団法人佐賀市文化振興財団	梅崎常務理事、宮崎事務局長、 木塚事業課長、河原東与賀文化ホール課長
	事務局	筒井地域振興部長、大野地域振興部副部長、 小林歴史・文化課長、野田副課長、武藤副課長、小副川主査
議事	・議事 1) 自己評価（文化振興財団） 2) 質疑応答 3) 採点 4) 集計 5) 総合評価・意見交換	
欠席委員	重松委員、納富委員、園田委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

【会議の公開・非公開】

○事務局

佐賀市では審議会や委員会等は、個人や団体の不利益になる場合や、会議の運営に支障が出る場合を除き、原則公開としている。公開と決定されれば会議の傍聴を認め、会議録の要約を市のホームページで公開させていただく。異議がなければ、原則どおり公開とさせていただきたいが、よろしいか。

○委員

（はい）

◎ （1）自己評価（文化振興財団）

○財団

1) 施設管理に関すること

- ・①文化会館利用者数、②東与賀文化ホール利用者数、③文化会館稼働率、④東与賀文化ホール稼働率について、4つの項目すべてにおいて昨年度上半期実績を上回っている。コロナ禍から回復しつつあるといえる。
- ・文化会館の防災訓練では、昨年引き続き「地震防災避難訓練」を実施した。施設の内外が大きく変化したため、あらためて避難路及び残留者確認など手順と動作を確認した。
- ・本年5月から運用を始めた有料駐車場について、敷地内の道路が対面通行から時計回りの一方通

行に変更されたことに伴い、来場者の安全確保のための案内看板を設置した。また、駐車場機器の運用を来館者に伝えるため、掲示物をはじめ、館内に新設したデジタルサイネージを用いて、来館者に駐車場機器の操作方法を周知している。

- ・市民をはじめとする外部への情報発信については、テレビ、ラジオ、新聞広告による宣伝広告や会館情報誌「新風」をはじめとする誌面への掲載、フェイスブックやラインといったSNS、ホームページなどのインターネットを利用し、広く情報を発信した。

2) 文化事業に関すること

- ・文化会館は、目標入場者数 15,000 人に対し実績が 5,379 人、東与賀文化ホールは、目標入場者数 3,400 人に対し 1,412 人となっており、下半期に入場者数が見込める事業を企画したため、上半期では実績が若干少なくなっている。⑦文化会館主催事業、⑧文化会館ワークショップ、⑨文化会館アウトリーチ、⑩東与賀文化事業、については順調に実施できている。
- ・アウトリーチ公演は「バリトン」「ピアノ」「ヴァイオリン」を小学校で、福祉施設で「佐賀にわか」を実施した。また、放課後等デイサービスの児童・生徒と家族を文化会館中ホールに招待して、インリーチを実施した。
- ・ワークショップは、「文化箏」「クラシックギター」「声優」「ピアノ」を夏休み中にそれぞれ2回ずつ実施した。
- ・文化会館では、共催で「能楽入門講座」を初めての鑑賞者向けに実施した。東与賀文化ホールでは、佐賀県出身のコントラバス奏者にスポットを当てた九響メンバーによるコンサートを実施した。
- ・第11回佐賀市民芸術祭について、11月10日～12日の3日間で開催した。入場者数は10,440人(R4:3,145人、R3:2,763人、R2:3,112人、R1:12,900人、H30:12,800人)であった。

3) 財務に関すること

- ・文化会館および東与賀文化ホールの利用料金収入額は、両者とも目標に対して順調に推移している。指定管理料について、とくに文化会館に関しては、光熱費が増加している。
- ・オフィシャルパートナーについては、昨年より1社減って12社(325万円の支援)となった。
- ・助成金の活用について、文化会館では文化庁が助成する「公文協アートキャラバン事業」として3事業、東与賀文化ホールでは「一般財団法人地域創造の公共ホール音楽活性化支援事業」として1事業を実施した。
- ・正味財産増減計算書(一般でいう損益計算書にあたるもの)について、「公益目的事業会計」「収益事業等会計」「法人会計」の3つに区分しているが、このうち「収益事業等会計」にR5年度から「駐車場事業」が増えている。文化会館駐車場の有料化に伴い、一つの事業として記載した。サンライズパーク全体の駐車場の管理は、SAGAサンシャインフォレストが行うため、財団とSAGAサンシャインフォレストで業務委託契約を結ぶことになっているが、まだ契約できていないため、駐車場利用料金が入ってくるのはこれからとなる。現在収入としているのは、駐車料金を主催がまとめて後払いできることにしており、その後払い分だけを収入に計上した。

4) 「R5 年度の課題」への対応状況

- ・金融機関等へのオフィシャルパートナー加入の働きかけができないか。
⇒現在は、「佐賀信用金庫」「JAバンク佐賀」に加入していただいている。現状を維持することに努めつつ、今後も新規の協賛企業・団体を獲得できるように取り組む。
- ・駐車場の取扱いについて、アリーナとの関係調整も含め、来場者の利便性向上への取組を柔軟に行ってほしい。
⇒調整は、佐賀県・佐賀市・アリーナ等を管理している SAGA サンシャインフォレスト・財団の四者で行っている。来場者への取組については、先に説明した案内看板の設置や駐車場機器の使い方の表示を実施した。またサンライズパーク一帯が混雑する週末などは、文化会館が所有する A2 及び A3 駐車場(計 384 台)を、会館の利用者及び来場者が優先して利用することができるよう、警備員を配置している。
- ・駐車場有料化はやむを得ないが、利用者アンケートによる意見聴取を。
⇒8 月から 9 月にかけて利用者アンケートを実施した。直近の利用者 50 件に配布し、29 件の回答があった。駐車場の質問については、昨年と比較して、満足度が低下した(5 段階評価、3.39⇒2.83)。主な理由として、『駐車可能台数が減った』『案内表示が少ない』という意見があった。今回の意見・結果を佐賀市やサンシャインフォレストと共有し、改善に努めていく。
- ・招待先やアウトリーチ先に偏りが無いよう、計画的に実施してほしい。
⇒アウトリーチ先は、重複がないように計画している。対象についても、ホールに来る機会が少ない団体や、芸術・文化を届けたい場所について検討を重ねた上で選定する。
- ・地道にコツコツと少人数でも頑張っている文化活動従事者にも、何らかの支援ができないか検討してほしい。
⇒今後も情報の取得に努め、意見・要望などを集めていく。なお、東与賀文化ホールでは、佐賀市文化連盟東与賀支部と『東与賀町民文化祭』を、また佐賀県高等学校文化連盟演劇専門部と『がばい高校演劇祭』を、それぞれ共催で実施している。今後も地域の文化・芸術活動を幅広く支援していきたい。
- ・将来にわたり、SAGAアリーナやサンライズパークとの望ましい連携をお願いしたい。
⇒現在は、お互いの利用状況、駐車場混雑予測を含めた情報交換を 1 ヶ月ごとに行なっている。

5) R5 年度上半期に高い実績を収めた事項

- ・文化庁が助成する「公文協アートキャラバン事業」として、文化会館中ホールで実施した「クラシック鑑賞講座」では、障がいをもつ子どもたちの放課後等をサポートするデイサービス施設の利用者である児童・生徒とその家族約 100 名を無料招待し、クラシック音楽の楽しさや素晴らしさを体験してもらった。

6) R5 年度下半期に向けた課題

- ・稼働率、利用料金収入の目標達成に努めること。
- ・文化会館・東与賀文化ホールの文化事業入場者の目標達成に努めること。
- ・SAGAアリーナ管理者と利用予定の情報を共有し施設の効率的な利用に努めること。

- ・有料駐車場の安全で円滑な運用に努め、利用者の利便性向上を図ること。

◎ (2) 質疑応答

○委員

有料化された駐車場について、ロビーに置いてある事前精算機について説明してほしい。

○財団

建物の中で精算機を使って精算してもらえれば、機械が車のナンバーを読み取っていて、その後30分間は駐車券不要で駐車場を出ることができる。車が出口に近づくと、自動でゲートが上がる。事前精算機の前にも列ができるが、それでも事前精算をした方がスムーズに出庫できる。

○委員

事前精算機を通してから30分は猶予があるということだが、30分を経過した場合、例えば実際の出庫まで1時間くらいかかってしまった場合はどうなるのか。追加料金が発生するのか。

○事務局

システム上、事前精算から30分以上経過すれば追加料金が発生するが、これまでに該当するケースはない。

○委員長

どうしても、駐車場のことがストレスになってしまっている。事前精算などの工夫はしても、構造的に混雑は発生してしまう。

○事務局

帰るタイミングが皆さん一緒になるので、出口の交差点の信号で、どうしても渋滞が発生してしまう。信号が青になって車が何台か進んでいっても、それ以上にゲートから車が出てきてつまってしまう。ただし、これは駐車場が有料化される前からそうになっていた。むしろ、最後の出口には右折と左折の両方のレーンができたので、そこは前よりもよくなっている気がする。

○委員

西側のロータリーから東側に抜ける方法はあるのか。

○財団

ロータリーを一周すれば東側にも抜けられるが、現状はその分岐点まで混雑が続いているので、東側に抜けようとする車もかなり待つことになる。なお、交差点の信号については、会館から出る車の待ち時間が長いときは信号が青に変わる間隔が短くなるよう、警察の方で設定してもらっている。

○委員長

レストランを利用すれば駐車場料金の割引があるのか。

○財団

そもそも最初の1時間は誰でも無料になる。レストランの利用客は、追加で1時間、合計2時間まで無料になる。レストランのみを利用されるお客様は、料金はかからないものと認識している。

○委員

駐車場について周辺から苦情は出ていないか。新聞等ではアリーナのイベントがあると、周辺のスーパーや商業施設に勝手に停められて困っていると記事が出ていた。

○財団

アリーナの催事については別として、文化会館のイベントで満車が見込まれるときは、東側にあるスーパーの周辺に監視員を立てるようにしている。スーパーの駐車場に車を停めて文化会館に歩いてこようとしている人がいれば、声をかけるようにしている。この半年間では、文化会館のイベント時に限って言えば、声をかけるような状況にまでは至っていない。また、アリーナで大規模なイベントが行われる場合も、徒歩や自転車で来る人が非常に増えている。

○委員

文化会館大ホールの1,800席が満員になる場合は、400台弱しかない駐車場では対応できないのではないかと。

○財団

アリーナのイベントと完全に重なってしまえばお手上げかもしれないが。大ホールの夜間のコンサート時はアリーナにはほぼイベントが入っておらず、アリーナ周辺の駐車場も使用することができる。国道沿いなどに満空表示がある標識もついているので、文化会館側の駐車場がたとえ満車でも、アリーナ側の「空」の駐車場を探していくことができる。

○委員

駐車場の空き情報はスマホなどでも見られるのか。

○財団

確認できる。どれくらいの時間差があるかどうかなど、その精度ははっきりしないが。

○委員長

半期が終わったが、落語等で完売が多いことに驚いた。クラシックなどは集客が難しいかもしれないが、売れるプログラムばかりやるのも財団としてどうかと思うので、これでいいかと思う。バランスよくやってもらいたい。

あと、基本的なことを聞くようだが、加藤登紀子さんのコンサートが23日に行われる。一方で今日21日に行われる民協（民主音楽協会）の公演が資料に上がってこないのは、自主文化事業ではないからなのか。その場合、使用料として収益があがってくることになるのか。

○財団

おっしゃる通り。会館使用料としての収益としてあがってくる。

○委員

自主文化事業に関することで、アウトリーチなどに取り組んでいただいてありがたいと思うが、対象となる学校は重ならないように配慮しているという話があった。計画の中で、どのようにバランスを取られているのかお聞きしたい。

○財団

まずは校長会などに諮ったうえで、学校から積極的に手が挙げればそこと調整をさせていただく。無い場合は、過去のデータを参考にし、これまで行ったことが無い地域の学校にこちらから話をさせていただくこともある。

○委員

これまで積極的に手は挙がってきたか。

○財団

呼ぶアーティストによって学校側の感触も変わってくる。有名な講師を呼べば希望する学校も増える。あとは、学校側のカリキュラムに合うかどうかによっても変わってくる。こちらが呼ぶアーティストもスケジュールの都合があり、いつでもいい訳ではない。学校側の都合と合うかどうかという要素も大きい。

○委員

学校側のカリキュラムの決定は相当早い。2～3年先を考えた計画を持っておく必要があるのではないか。

○委員

アウトリーチはとても素敵な取り組みだと思っている。特別授業の所見のところで「ほとんどの児童が初めて聴く曲が多く、開演前はどのような感じ方をするのか心配したが、両校の児童とも集中していて、一人ひとりの聴き方で楽しんでいることを表情から察することができた」とある。小・中学校は義務教育だから、家庭環境に関係なくいろんな文化に触れられる機会があると思っているが、こちらから学校に出向いていくというのは、平等にその機会を提供することができるいい取組だと思う。学校のカリキュラムが出てから調整するのはとても大変なので、校長会の場でこちらから検討の材料となるような資料を提供したり、開催の時期などを早めにすり合わせることであれば、音楽以外の演劇なども希望があったりするかもしれない。事前の調整も可能になることからぜひお願いしたい。また、佐賀新聞が清和高校で選挙の授業を行ったが、プリントなどを見ているとやはり学校の授業とは違って、私の子供は「何をするのか、それをしたら何がどうなるのか」をもっと聞きたかった、と感想を書いていた。子供がいつも考えないようなことに触れられるきっかけになっていて、まさにアウトリーチも、そういったきっかけを子供たちに与える良い場なので、学校との調整は大変だと思うが、ぜひやっていただきたい。そして子供たちがそうやって文化に親しんだ後に、財団はこんなこともやっているよと子供たちに伝えてほしい。

○委員長

教科書にはないこと、教師がいかに脱線できるかということ。そしてその脱線の中に、こういったアウトリーチもあるのだと思った。放課後デイサービスなども、普段音楽に接することができない親子に機会を提供できるいい取り組みだ。収益だけ考えていると、こんなことは思いつかないかもしれない。これが財団のいいところだと思う。

○委員

インリーチの計画はこれからもあるのか。

○財団

放課後デイサービスは、障がいを持つ子供さんの両親やその関係者の方々が、通常の音楽会に子供を何とか参加させたいと模索されている中で、財団に話があった。それなら文化会館の中ホールで財団が通常のスタイルと同様の音楽会を開催し、経験してもらうのが良いだろうということで実施に至った。ことのほか子供たちの表情もよく、来年度も計画したいと思っている。

○委員

私が文化財団の職員だったころ、九響の定期演奏会がどんどん観客が減っていたので、財団で助成を行い、九響さんにも負担を頂き、市内の子供たちを無料で招待する取り組みを行った。佐賀市

の北と南に分けて一日に入替で2回公演、これをもう一日行った。大ホールの1,800人、学生さんで埋め尽くした。九州ブロックや、県内他の施設でも行った。その中で思ったのは、佐賀市の教育長と話をしたのだが、ホールに来てもらうとしてその費用はだれが負担するのか、という話になった。自転車や徒歩で来ることができる近くの人はいいが、遠方だと車を出さないといけない、では貸し切りバスを用意するのか。何10万もかかるようになった場合はどうするのかと言われても、財団では負担できない。当時は、PTAに協力を要請し、PTAで交通費などを負担してもらった。こういうことをやったのだが、とても大変だった。教育委員会、教育長を通じて校長会に呼びかけ、それで手を挙げてもらって、そしてそれを取りまとめつつPTAとも調整をして、全部を回さないといけないし、学校側のカリキュラムも空けてもらわないといけない。

アウトリーチは限られたところにしか行けないが、インリーチになると大きな会場を確保すればそこに多くの人に来てもらえる。インリーチもうまく進めていく必要がある。施設関係にはもうちょっと呼びかけて、多くの利用を促したい。

◎ (3) 採点、(4) 集計、(5) 総合評価・意見交換

○委員長

駐車場に関しては、県税事務所などに車を停めて歩いて行っても、アリーナの建物が常に視界に入っているからか思ったより近く感じた。「歩く」という選択肢にもっとシフトしていく必要がある。また、本物に触れることの素晴らしさを実感した。文化会館でも「本物」を子供たちに提供する、ということを大事にしていきたい。

◎自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 R5年度上半期実績

◎判定の基準
 【A】 高い成果を収めている 【B】 概ね良好な成果を収めている 【C】 向上の余地がある。【D】 見直しが必要である 【E】 抜本的な見直しが必要である

評価項目	評価資料Ⅱ	自己評価	コメント(評価の理由等)
1) 施設管理に関すること			
① 必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P22～24	B	適切な保守点検、修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。5月からの駐車場の有料化開始に伴い、車輛と歩行者動線に留意して来場者の安全を図った。令和5年度の防災訓練では地震防災避難訓練を実施し、地震発生時の公演中止、避難路の安全確認、残留者確認など手順と動作を確認した。
② 利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P2～7		設備・備品の劣化や破損に注意し、利用者に支障がでないよう適宜修繕を行った。文化会館は駐車場が有料化・台数減となり、駐車場機械の使い方等の周知に心がけた。施設利用者のうち、「主催者」「練習室利用者」等には割引処理を行っている。
③ ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P20		テレビ、ラジオ、新聞といったメディア媒体上での宣伝広告、会館情報誌、市報、タウン誌への公演情報の掲載などジャンルや年齢層に合わせた告知を行った。フェイスブックやラインといったSNS、地域、旅行、イベントなどのフリーサイト、ホームページ以外のインターネット上の告知も行った。
2) 文化事業に関すること			
④ 文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P8～12	B	文化会館では体験活動事業3企画6公演、アウトリーチ5企画6ヶ所8公演、主催事業7企画7公演を実施し5,379人の入場者があった。東与賀文化ホールでは体験活動事業1企画2公演、アウトリーチ1企画3ヶ所4公演、主催事業5企画5公演を実施し1,412人の入場者があった。
⑤ 地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	P8～12		文化会館では、小学校へのアウトリーチ(4校6公演)を「バリトン」「ピアノ」「ヴァイオリン」で実施、福祉施設1か所へ「佐賀にわか」のアウトリーチを実施した。またアウトリーチが難しい放課後等デイサービスの児童・生徒と家族を中ホールに招待しておこなうインリーチを実施した。
⑥ 将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	P8～12		文化会館では、「文化箏」「クラシックギター」「声優」のワークショップを実施、いずれも初めての取り組み。東与賀文化ホールでは、「ピアノ」ワークショップとヴァイオリンのアウトリーチを実施した。
⑦ 地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P8～12		文化会館では、(公社)能楽協会、大濠公園能楽堂、西日本新聞社との共催で「能楽入門講座」を実施、解説やあらすじ記載のパンフレット配布で初めての方向けの工夫を行った。東与賀文化ホールでは、佐賀県出身の声楽家によるコンサートを企画実施、九響メンバーによるコンサートメンバーの佐賀県出身の演奏家(コントラバス)に焦点を当てた曲の演奏もおこなった。
3) 財務に関すること			
⑧ 市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P18	B	オフィシャルパートナー企業は12社で計325万円の支援を得る事ができた。文化会館は文化庁助成対象のアートキャラバン事業として3事業を実施した。東与賀文化ホールは(一財)地域創造の公共ホール音楽活性化支援事業助成金を活用して事業を行った。
⑨ 積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P13,14,20,21		文化会館・東与賀文化ホールとも、利用者数、稼働率、利用料金収入すべてで昨年前期より実績は増加した。
⑩ 経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P15～17		電気使用については、デマンドによる使用量管理を確実に実施した。消耗品等の発注はネット検索を利用するなど、単価や数量を確認して行った。
前回の委員会「R5年度の課題」		課題への対応状況	
①金融機関等へのオフィシャルパートナー加入の働きかけができないか。 ②駐車場の取扱いについて、アリーナとの関係調整も含め、来場者の利便性向上への取組を柔軟に行ってほしい。 ③駐車場有料化はやむを得ないが、利用者アンケートによる意見聴取を。 ④招待先やアウトリーチ先に偏りがなく、計画的に実施してほしい。 ⑤地道にコツコツと少人数でも頑張っている文化活動従事者にも、何らかの支援ができないか検討してほしい。 ⑥将来にわたり、SAGAアリーナやサンライズパークとの望ましい連携をお願いしたい。		・現在は、「佐賀信用金庫」と「JAバンク佐賀」に加入していただいている。 ・調整は、佐賀県・佐賀市・SAGAサンシャインフォレスト・当財団の4者で行っている。 ・駐車場は案内看板を設置し、精算機の取扱説明の表示を行った。 ・利用者アンケートは8月～9月にかけて実施。(10月に集計) ・アウトリーチ先は、直近での重複がないように計画している。 ・市民の文化芸術活動や文化芸術活動団体の情報の取得に努め、意見・要望などを集める。 ・現状では、互いの利用状況の情報交換など行っている。	
R5年度上半期に高い実績を収めた事項		R5年度下半期に向けた課題	
・文化会館自主事業において、「クラシック鑑賞講座」(中ホール)に放課後等デイサービスの児童・生徒とその家族(約100名)を無料招待してコンサート会場を体験するプログラムを提供した。		・文化会館、東与賀文化ホールの「稼働率」、「利用料金収入」の目標達成に努める。 ・文化会館の自主文化事業、東与賀文化ホールの文化振興事業の入場者数の目標達成に努める。 ・SAGAアリーナ管理者と利用予定の情報を共有し施設の効率的な利用に努める。 ・有料駐車場の安全で円滑な運用と情報提供に努め、利用者の利便性向上を図る。	

《 集計表 》 令和5年度上半期実績評価 採点の結果 委員コメント

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
1) 施設管理に関すること		150	122	81.3	A
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	50	42	84.0	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	50	40	80.0	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	50	40	80.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「新風」をご覧になっている方が多いと思う。 ・駐車場の利用調整（混雑解消） ・駐車場有料化に伴う利便性について、精算機のロビー使用のPRにも努力されている。 				
2) 文化事業に関すること		200	170	85.0	A
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	50	42	84.0	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	50	46	92.0	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	50	44	88.0	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	50	38	76.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ、インリーチともに積極的に取り組まれている。 				
3) 財務に関すること		150	112	74.7	B
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	50	38	76.0	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	50	36	72.0	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	50	38	76.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィシャルパートナーの働きかけについて、あと一歩促進を。 				
◆総合		500	404	80.8	A
◆総合評価					
高い実績を収めた事項			令和5年度の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動事業やアウトリーチ、インリーチともに積極的に取り組まれている。 ・普段はなじみの薄い「能楽」を入門講座として工夫、実施されたことは評価できる。 ・地元出身芸術家の起用も実施されている。 ・今上期も大きなトラブルなく確実な事業、管理がなされ安心感がある。 ・放課後デイサービスの児童生徒とその家族を無料招待してコンサート会場体験をする企画プログラムは、市民の声を反映し実現した形と聞いて素晴らしいと思った。ニーズをうまくつかみ、財団だからこそできることを行っていること、ぜひ今後も継続して頂きたい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場のスムーズな活用のためのPR活動と、不満解消の努力を継続してほしい。 ・稼働率、入場者数の目標達成の努力をお願いする。 ・アウトリーチの周知（学校との調整が必要）を図り、学校側の継続的な活用を求めるためにも、仕向けが必要。 ・収益事業について、より一層稼働率を上げ（特に東与賀）、市からの委託料を少しでも減らすことや、施設の改修費に使われることを希望する。 ・SAGAアリーナの設置で他県から来る人も増えていると思うので、来訪者が手に取りやすい場所に「新風」を置いておくなどする事でより集客につながるのではないかと思います。 		